

# 広報ただみ診療所

朝日診療所

医師

高柳

宏史

## 「家族に認知症の患者さんを持つ方へ」

暑い夏でしたが、皆さまはいかがお過ごしでしたか？

さて、今回は認知症の家族へのメッセージを書こうと思います。只見には多くの認知症の患者さんがいらっしゃいます。若松などや

その他の地域でいわゆる専門外来を受診された方でも、家族がどのように認知症にかかった家族と接するかについて話を受ける機会には少ないようです。認知症は残念ながら現在のところ不治の病です。しかし、統計上、年齢が90歳に達した方で約3割が認知症なのです。「老化」が加齢に伴う全身の臓器機能の低下とも言えることを考えると、認知症は脳の老化であり、ヒトという生物である以上自然の変化なのかもしれません。

しかし、自然であるとか、

病気であるとかそう思っても割り切れない気持ちもわかりますし、24時間向き合うとイライラしたり、時には喧嘩になってしまいます。家族なのだから、そういうことも仕方ないとも思います。

だけでも、認知症により記憶力は低下し、いろんな事もできなくなるわけですが、感情や自尊心は長く残っていることも特徴なのです。例えば朝ごはんを食べた後に「朝ごはんまだか」と言っただけの時、この朝ごはんを食べていないという事は明らかに間違いなのですが、それを訂正することは非常に難しいのです。そして、それを頭ごなしに「さっき朝ごはん食べたでしょう」と言われると、感情や自尊心を傷つけてしまいます。

きつと、朝ごはんの事は

忘れてしまいますが、その時にうけた自尊心を傷つけられたことや、気分を損ねたことは認知症の方の中でも「残って」おり、そういったストレスが認知症の進行を進めてしまうという事もわかっています。

もしも、間違った言動がある場合は、時間を空けたら、話題を変えたり、柔らかな対応してください。少し間が空くと間違った言動も忘れてしまうのも認知症のいいところですよ。

最後に、公益社団法人「認知症の人と家族の会」が提供する電話相談窓口を紹介します。

☎0120-294-456  
(月)金、午前10時～午後3時)もちろん、診療所や在宅介護支援センターなどでも相談に乗りますので、家族で抱えすぎずに気軽に相談してください。



# 今年こそは初戦突破！ 市町村対抗野球只見チーム始動！



第4回市町村対抗福島県軟式野球大会に出場する只見町チームが「初戦突破」を目指し、練習に汗を流しています。過去3回の大会はいずれも初戦で敗退。今年こそは、初戦突破を！とチーム一丸となって練習に励んでいます。

手3名を加えた20名で結成。練習は毎週水曜日午後7時から町下グラウンドで気合を入れ行なっています。

先日、組み合わせも決まり、只見町チームの初戦は9月26日(日)午前9時45分から福島市あづま球場で二本松市と対戦します。

町民の皆さんの熱い声援をお願いします。